六甲山系山田川地域防災学習ゾーン検討委員会
設立趣意

六甲山系は、およそ１００万年前に誕生した東西約３０km、南北約８km の連山です。明治初期には、樹木の伐採により山頂までほとんど草木のない山であった六甲山系も、現在では約 100 年に及ぶ植林などの取り組みにより、多様な動植物の生息する豊かな自然が回復し、都会に隣接する国立公園として、神戸・阪神間の市民にとってかけがえのない自然を提供しています。

豊かな自然を提供してくれている六甲山系ですが、その地形、地質特性などから、山麓に広がる神戸の街に、たびたび大きな土砂災害をもたらしました。近年では、昭和 13 年、36 年、42 年の大豪雨に伴う土砂災害などにより多くの尊い人命が失われています。

六甲砂防事務所は、昭和 13 年の大水害を機に設立され、国土の保全と市民の安全確保に向けて、砂防えん堤などの砂防施設の整備やグリーンベルトの整備などを進めてきました。しかし、災害の発生を完全に防ぐことは困難であり、災害発生時の被害を軽減するためには、市民の主体的行動や地域コミュニティの醸成などが重要となります。

この認識の下、警戒避難体制の整備を進めるとともに、住民の砂防事業に対する理解や防災意識の向上を目的として、小学生を中心とした地域住民への出前講座や、ホームページによる事業紹介などの啓発活動にも取り組んできました。今後も、こうした啓発活動を進めていくことが重要であると考えています。

六甲砂防事務所では、これまでの取り組みをさらに前進させるよう、六甲山系の子どもたちや地域の方々に、六甲山の土砂災害と都市の発展の歴史との関係を学習する場を提供するため、６つの河川（湊川・生田川・都賀川・住吉川・芦屋川・夙川）を対象に体験型の学習ゾーンの整備に取り組んでいます。

今回、山田川地域（神戸市北区）を対象とした「学習ゾーンの整備計画」の策定を予定しています。

本検討委員会は、学習ゾーン整備に向けた下記の項目などについて検討を行い、六甲砂防事務所への提言としてとりまとめることを目的として、学識経験者、郷土史家、教育関係者などにより構成するものです。

●学習展開の方向性：地域固有の学習要素の「発掘」「再認識」と、これらを活用した学習展開、ストーリー展開の方向性の検討。

●ソフト整備：地域特性を活かした「冊子」「モデル散策ルート」「サブノート」の検討。

●ハード整備：散策ルートの活用展開に必要な現地説明看板の配置計画等の検討。